

窓

京都新聞 令和2年(2020年)10月21日(水)

保育実習 対策徹底し笑顔

木津川市・竹田 月子(大学生・19)

私が保育実習に行く際、一番考えたことは新型コロナウイルスと子どもたちの関係についてだ。同じ空間で長時間たくさんの人数の子どもと先生たちが一緒に過ごすことに危険はないのか。しかし、新型コロナウイルスが流行しているからといって、保育所を閉鎖するわけにもいかない。

保育所では、新型コロナウイルスが保育所内でまん延しないよう、さまざまな対策が取られていた。手洗い・うがいの徹底や、食事

をする際に対面で座る子どもたちの間に透明のシールドを置くなど、しっかりと対策が行われていた。

今までの夏はプールがあったが、それも行うことができず、水遊びに変更になったりもしていた。プールで遊ぶことができない分、子どもたちがより楽しく水遊びを行えるように、水にせっけんをまぜて泡で遊んだり、水風船をみんなで投げあって遊んだりした。

水遊びの時間はクラスごとで区切られているため短かったが、新型コロナウイルスというものを忘れるくらい子どもたちのかわいい笑顔でいっぱいだった。私は心が温かくなった。